

事業所名

という

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

1 月

7 日

法人（事業所）理念	ひとりひとりが成長を感じられ、楽しくいつも笑顔で安心して過ごせる場所となるよう子どもたちと向き合っていきます。				
支援方針	様々な活動による体験（経験）や個々に応じた療育を提供し、子どもたちの総合的な成長を支援する。				
営業時間	14 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無 ○あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	○ADLの成長を図る生活訓練（トイレトレーニング、箸の使い方、衣服の着脱等） ○日々の活動の中で心身の健康維持に努め、子供の健康チェック（検温・状態観察）を行う。 ○靴をそろえて靴箱に入れる。荷物を片づけるなどの基本的な生活スキルの向上を目指す。			
	運動・感覚	○運動を取り入れた活動を行うことで体力、身体機能の向上を図る（週2回） ○粘土やアイロンビーズ等の活動を通して手指の巧緻性や感覚の認知形成を行ないます。 ○公園・戸外活動を通じ自然と触れ合う機会を設け、視覚・聴覚・触覚といった感覚を刺激し、五感を使い感覚や経験を養っていく。 ○ビジョントレーニングを行い、手と目の協応性を養えるように支援する。			
	認知・行動	○お金の勉強、実際に道路に出る危険認知トレーニングの実施 ○様々な社会資源を利用した集団活動、買い物体験等（主に休業日実施）			
	言語 コミュニケーション	○絵カード、写真、イラストを利用した言語を促す訓練（個別支援時） ○指差し、身振り、サイン等を用いて環境の理解と意思の伝達ができるように支援 ○絵カードなどを利用して絵と言葉の意味を結びつけ、語彙力の向上を目指す。 ○他者とスムーズにコミュニケーションがとれるように、相手の話を聞く力や自分の考えを伝える力を養っていく。			
	人間関係 社会性	○遊びや施設外活動等を通じてルールを守ることや正しい言葉遣い、場面に応じた挨拶や言葉選びなどを支援（活動・レクリエーション時） ○様々な社会資源を利用した集団活動、買い物体験等（主に休業日実施） ○異年齢、他学校の児童と活動を行うことにより多くの考え方を学び協調性を養う。集団が苦手な子どもも段階的に集団活動に入れるように支援する。			
家族支援	○送迎時に学校や家庭での情報共有の時間を設けます。また、定期的な面談の中でその他で悩みや相談があれば必要に応じて助言をします。 ○保護者の子育てや子どもの困り感などに対する相談支援。 ○家族のレスパイトや就労等によるニーズに対応するための延長支援。	移行支援	○目標とする進路に向けての相談支援やその方向性に向けての準備支援 ○将来的な移行を見据えたこどもの発達の評価・支援の情報提供を行う。 ○移行先との連携を図る。		
地域支援・地域連携	○関係機関との連携を図り情報共有を行う。 ○個別のケース検討のための会議への参加。	職員の質の向上	○定期的な研修の実施（身体拘束、虐待防止、福祉サービス知識等） ○職員を他事業所に派遣しての研修 ○自治体や児童発達センターなどの外部が実施する研修への参加		
主な行事等	季節の行事：春（花見等） 夏（川遊び、プール遊び等） 秋（ハロウィン、運動会等） 冬（クリスマス会、忘年会、初詣等） 他、避難訓練や誕生会の定期的な開催				